

# 小学校社会科教育における シビックプライド涵養に関する実践的研究

田中 尚人<sup>1</sup>

<sup>1</sup>正会員 熊本大学政策創造研究教育センター 准教授 (〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1)

E-mail: naotot@kumamoto-u.ac.jp

近年、18世紀にイギリスで生まれた「シビックプライド」(市民が地域社会に対してもつ自負と愛着)の考え方が、都市デザインやまちづくりの文脈で注目されている。筆者らは、国内外の多様な教育実践を参照しつつ、従来の「公民的資質」との異同を探りながら、新しいカタチの小学校社会科地域学習を実践するために「シビックプライド教育研究会」を発足させた。本研究では、小学校総合学習を対象に、「まち探検」、「まち歩きマップ」、「交流会」が、シビックプライド涵養に関して果たした役割について考察した。具体的には、小学校教諭との「まち歩き」を基盤とした社会科教育のプログラム、教材の作成や運営方法について、実践・検証を行った。

**Key Words :** civic pride, community development, town walk, social education, local identity

## 1. 研究の背景と目的

近年、18世紀にイギリスで生まれた「シビックプライド」(市民が地域社会に対してもつ自負と愛着)の考え方<sup>1)</sup>が、都市デザインやまちづくりの文脈で注目されている。筆者らは、それぞれ地域学習に関連する専門性を有し、多様な専門家同士の協働のうえに、国内外の多様な教育実践を参照しつつ、従来の「公民的資質」との異同を探りながら、新しいカタチの小学校社会科地域学習を実践するために「シビックプライド教育研究会」を2014年4月に発足させた。

小学校社会科教育(総合的な学習の時間を含む)には、地域住民、行政、各種専門家、など様々な立場の人々が関わっている。小学校学習指導要領において社会科は、「公民的資質の基礎」や「地域社会の一員としての自覚」を育むことを目標<sup>2)</sup>としている。このような学習目標の達成には、地域アイデンティティに触れ、様々なステークホルダーとの関係性を学ぶ「まちづくり」の学習が重要な働きをすると考えられる。

本研究では小学校社会科教育として総合学習の時間を対象に、プログラム全体の設計、「まち探検(まち歩き)」、「まち歩きマップ(まち歩きコース設定)」、「交流会(ワークショップ)」が、シビックプライド涵養に関して果たした役割について考察した。具体的には、小学校教諭との「まち歩き」を基盤とした社会科教育の

プログラム、教材の作成や運営方法について、実践・検証を行った。

## 2. 地域学習プログラムの設計

平成26年度は、筆者が前年度より協力体制にあった熊本市立日吉東小学校4年生担任の堀尾和美教諭とともに、3クラスに分かれている4年生の総合学習「地域を拓く(70時間)」の単元にて、シビックプライド涵養に繋がる教育プログラムの開発を試みた。

### (1) アドバイスの専門性について

具体的には、教材やまち歩き、マップづくりに対して、筆者が景観論や土木史、まちづくりに関する専門的知識を提供し、それらの成果は小学校が立地し、筆者がまちづくり懇話会会長を務める熊本市南区のまちづくり施策に、実際に活用された。

- ①景観論：主に「まち歩き」から「マップづくり」へと繋がるプログラム作成に対して、地域景観の成り立ちを理解するために文化的景観の概念を説明し、目に見えるもの、見えないもの。地図に表現した。
- ②土木史：校区を流れる三ノ井手の由来や、土木技術の発展とともに川や道路などインフラストラクチャー、生活環境が変容してきたことを解説した。
- ③まちづくり：ワークショップのデザイン手法<sup>3) 4)</sup>の他、

「まち歩きはまちづくり」という茶谷 が提唱するまち歩き<sup>5)</sup> や、美里町方式と言われるフットパス<sup>6)</sup> など多様な主体が協働する手法を導入した。

## (2) 教育プログラムの概要

「未来へ～わたしたちのふるさと日吉東～」

- ・自らたてた課題について友達と協同して調べ、わかったことをわかりやすくまとめることができる。
- ・仲間と協力して活動することができる。
- ・他の地域と日吉東とのつながりを知り、地域の一員としての自覚をもつことができる。
- ・先人への尊敬や感謝の気持ちを表現することができる。

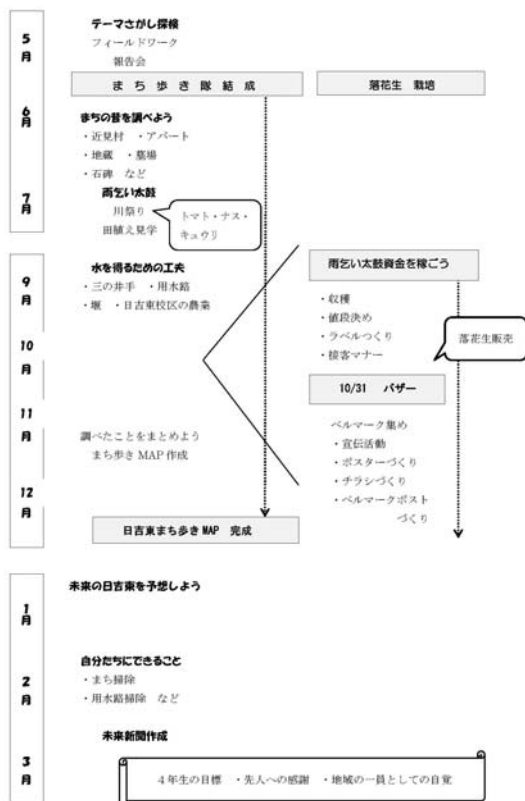


図-1 活動内容

## (3) 教育プログラム全体の開発に関する課題と助言

### 1) 教科・教育面の課題

- ・教えるべき内容の整理が不安
- ・教科書がない、資料を自作する必要がある
- ・資料の入手先や信頼性に関する心配
- ・児童の生活経験の差に対応する手立て
- ・他校との整合性、一般のテストが解けるのか

### 2) 実施・運営面の課題

- ・校外実習における児童の安全確保
- ・地域人財の発掘（誰に話を聞くのか）
- ・協力者との打合せの時間確保
- ・学校表示や他の教科との時間調整
- ・保護者の理解が必要

### 3) 課題に対するアドバイス内容

- ・景観論、土木史の専門家としての知見から解答
- ・まちづくりの実践者としての回答、情報提供
- ・学生とともに、まち探検を補助
- ・行政、地域住民とともに、授業全体を補助

## 3. まち探検（一学期の取り組み）

### (1) まち歩きの授業内容

日吉東小学校4年生3クラスが「まち探検」と称し、地域の謎解きのためのまち歩き調査（写真-1、2参照）を児童が行った。筆者は、大学で使用しているまち歩きの講義資料を、小学生用にアレンジして提供した。



写真-1 まち探検の様子

写真-2 インタビューの様子

先生を交えた話し合いや地域住民の方々へのヒアリング調査などから、「地域の姿」、「三の井手（校区を流れる農業用水路）」、「お寺・お地蔵さん」、「雨乞い太鼓」などのテーマを設定していった。

### (2) まち歩き時の児童の疑問

筆者らが同行した2014.6.5（木）14:00～15:30の「校区のなぞときに出かけよう！」の際に、児童の問いを以下の通りに整理した。

#### 1) 地域の姿、暮らし、農業について

- ・どうして家がふえてきているのか。
- ・ビニルハウスの中で何を育てているのか。
- ・どうして畑がたくさんあるのか。
- ・ビニルハウスはいくつあるのか。
- ・アパートやマンションは何軒あるのか。
- ・花畑ではどのようにして水をやっているのか。
- ・なぜ花を植えてあるのか。
- ・花畑はどこにあるのか。
- ・どんな花が植えてあるのか。
- ・アパートやマンションの広さ。
- ・建物は何軒あるのか。

#### 2) 三の井手について

- ・用水路の水は、どこから流れてくるのか。
- ・三の井手には、なぜその名前が付けられたのか。
- ・小さな川なのに、なぜ名前がついているのか。
- ・用水路はどこにつながっているのか。
- ・用水路の水はどうして急にふえたり減ったりするのか。

- ・用水路はどこもつながっているのか。
- ・どうしてコケやわかめみたいなものが生えているのか。
- ・どうしていたるところに用水路があるのか。
- ・どうして家があるところに、用水路があるのか。
- ・なぜ川などは、海につながっているのか。
- ・どういうことで役にたっているのか。

### 3) お寺・お地蔵さんについて

- ・赤いとびらの中は、どうなっているのか。
- ・注連縄は、どのくらいの長さがあるのか。
- ・お墓には、何人の死んだ人がいるのか。
- ・地蔵は、何のためにあるのか。
- ・赤いとびらの中に入りたい。

### 4) 雨乞い太鼓について

- ・どんな時に大太鼓を使うのか。
- ・大太鼓の大きさ。何の皮でできているのか。
- ・なぜ公民館ができていているのか。
- ・公民館の中を見てみたい。
- ・ばちは何でできていて、昔はどうだったのか。
- ・大太鼓をつくるのは、どこで作ってもらったのか。
- ・太鼓の外側にある路位点々は、何でできているのか。
- ・大太鼓と普通の太鼓は何が違うのか。
- ・太鼓のなかは空なのか。
- ・大太鼓はどんな音か。
- ・大太鼓を見てみたい。たたいてみたい。

以上のような問いをまとめながら、地域を理解した。

## 4. まち歩きマップ (二学期の取り組み)

### (1) まち歩きマップづくり

4年生3クラスで、二学期に入っても何度かまち探検を行い、最終的に16枚のまち歩きマップを製作した(写真-3, 4, 5参照)。筆者は、すべてのマップに対してコメントを付けて返却した。

#### 1) 1組4班「日吉東マップ」に対するコメント

- ・小学校のまわりのようす(とちりよう)が、よくわかるので、よい地図ですね。
- ・東バイパスの方には、大きなお店が多いようですね。3号線の方と比べてみよう。

#### 2) 2組5班「近見さんぽ」へのコメント

- ・たくさん絵と、どのように「さんぽ」するのか、が描かれていて楽しいですね。
- ・「三の井手」は、みなさんにとって、また農家の方々にとって、何の役にたちますか?

#### 3) 3組2班「おじマップ」へのコメント

- ・マップの名前「おじマップ」がいい! ちいきのお地蔵さんを、ぜんぶ数えたいね。
- ・どのお地蔵さんが、ちいきの人に好かれていますか?

### (2) まち歩きマップの分析

「まち歩きマップは、ただの見どころマップではなく、まちのテーマを示す、まち歩きのためのマップである」という講義内容に即して、児童が自班にてテーマを決め、それらを反映させたマップが16枚できた。これらは、テーマの重なりもなく、多様性が見られ、非常に有意義な演習内容であった。これらの成果は、まち歩きコースを公募していた熊本市南区作成の『まち歩き手帖 Vol.3』(写真-6)に収録された。



写真-3 まち歩きマップの例(4年1組4班)



写真-4 4年2組5班の地図



写真-5 4年3組2班の地図



写真-6 まち歩き手帖 Vol.3の1ページ

## 5. なかよし交流会 (三学期の取り組み)

### (1) 交流会の背景と概要

三学期には「未来の日吉東」について児童は考え、学級の総意として、未来に「子どもからお年寄りまでが集



える交流施設がほしい」という意見にまとまった。これは事前のアンケートでも同様の意見であり、自分たちが望む未来の日吉東にするために、今自分たちにできることを考え、「まずは自分たちが地域の人となかよくなる」という答えが「交流会」となった。

交流会では、自己紹介を兼ねたアイスブレイク「じゃんけん列車」を行った後、地域住民の方と児童が混じり合い町内会ごとに4班に分かれて、地域の良い点○、悪い点×を抽出し×を○にする手法などを議論して、まとめを発表するワークショップ(写真-7, 8)を行った。

- 1) 1町内～4町内個別の特徴 の他、
- 2) 1町内～4町内に通じて言えること として以下の3項目が挙げられた。

◎地域の方が親切。協力して下さる。△交流できる場が少ない。△ごみ出しのルールが守られていない。

※あいさつや交通のルールについては、「できている」「できていない」の両方の意見が出ました。



写真-7 アイスブレイク 写真-8 交流会でのWS

## (2) 交流会の感想

交流会の感想を、5人分掲載した。

自分がみんなから守られていることがわかりました。会の進め方など、いろいろな仕方をいっぱい知れて実行できるようになりました。楽しんでもらったことで、ちょっと成長しました。【涼花】

話し合いでは、地域の人と同じことを考えていたので、地域の人とぼくたちは、考えていることが同じなんだとおもいました。【康太郎】

最初は交流会をやるなんて、思ってもいませんでした。でもこの交流会をやることでもうすぐバラバラになってしまうこのクラスが、一つにまとまったので、みんなと協力してよかったと思います。それに地域の方とも仲良くなれました。【美咲】

ぼくは、絶対に交流施設があったらいいと思います。そのわけは、地域の人が全員優しかったし、おもしろかったから、またこういう機会があったらいいなと思いました。【皓晟】

地域の人たちが事故をおそれていることやボランティア活動について考えて下さっていることがわかりました。「地域の人たちは、私たちを心配してくれているんだ」と思いました。【彩乃】

## 6. シビックプライド涵養に関する考察

本章では、市民が地域社会に対してもつ自負と愛着をシビックプライドとして、各課題において小学生が身に付けていく過程について考察した。考察は、堀尾教諭と筆者の議論の結果を、共同研究者である伊藤、戸田両先生に確認する形で進めた。

(1) まち探検：まち探検では、文化的景観の考え方を通して、「れきし、しぜん、くらし」から目に見えるもの、見えないもの地域の様々なもの・ことを「知る」ことで、地域において「私」という存在を認識できた。

(2) まち歩きマップ：マップづくりでは、自分たちで集めた情報を基に、テーマに即した地図を「つくる」というグループ作業をすることで、「私たち」が社会において果たす役割が理解できた。

(3) なかよし交流会：交流会では、地域コミュニティの他者と交流することで、地域社会における他者との関係性について理解できた。

地域学習は、社会科教育または総合学習の時間で行われる単元であり、シビックプライドの涵養と密接に結びついている。まち歩きを核とした地域学習プログラムでは、児童が「地域社会」との結びつきを、クラスメイトとともにグループ学習を行って理解していく過程が、シビックプライドの涵養に効果的であると考えられる。

謝辞：本研究では、熊本市立日吉東小学校堀尾和美教諭の他、校長先生以下教職員の皆様、そして一緒にまち歩きを行い、マップを作成してくれた平成24年度4年生の児童の皆さんにご協力頂きました。また、本研究は科学技術研究費基盤研究(C)一般「異学問・学校・地域との協働によるシビックプライドを育む小学校社会科地域学習の開発」に関する研究事業の一環であり、共同研究者である鳴門教育大学伊藤直之先生、佐賀大学戸田純一郎先生にも、謝意を表します。

## 参考文献

- 1) シビックプライド都市のコミュニケーションをデザインする, シビックプライド研究会編, 宣伝会議, 2008.11.
- 2) 文部科学省 小学校学習指導要領 社会, 2008.3.
- 3) 美馬のゆり, 山内祐平著, 「未来の学び」をデザインする一空間・活動・共同体, 東京大学出版会, 2005.4.
- 4) 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹著, ワークショップデザイン論 創ることで学ぶ, 慶應義塾大学出版会, 2013.6.
- 5) 茶谷幸治著, 「まち歩き」をしかける コミュニティ・ツーリズムの手ほどき, 学芸出版社, 2012.8.
- 6) 神谷由紀子編著, フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く, 水曜社, 2014.5.

(2015. 7. 31 受付)